SEA TRIAL

AMERICAN STAR

REGAL 33 OBX

アウトボードエンジンの高馬力化により、従来スターンドライブが主力だった北米のエクスプレスクルーザーのアウトボード化が進んでいる。
北米を代表するエクスプレスクルーザーブランドの一つ「**REGAL**（リーガル）」も同様だ。
2017年のイヤーモデルとして初登場し、以来**6**年余りの熟成を経て再上陸を果たした「**REGAL 33 OBX**」。
素晴らしいハイパフォーマンスを見せるバウライダーだが、オープンとは思えない驚きの居住性を有する人気モデルだ。
神戸沖でシートライアルを行った。

text: Atsushi Nomura　photo: Kai Yukawa
special thanks: REGAL JAPAN　https://regalboats.jp

バウライダーらしい低重心で安定感ある走りと強烈な加速を体感できる。アウトボードを採用して、さらに進化を遂げた。

軽く40ノットオーバーを叩き出すハイパフォーマンスモデル
バウライダーにして驚きの居住性を有する希有な一艇

エクスプレスクルーザーやランナバウトを中心としたラインナップを揃えるボートビルダー「REGAL（リーガル）」では、2017年のイヤーモデル（2016年秋発表）以降、パワートレインのアウトボード化が急激に進んでいる。現在は同社最大クラスの42フィート・フライブリッジ艇にもアウトボード仕様があり、「REGAL 42 FXO」はトリプルYAMAHA V8 F425を採用している。これもひとえに近年のアウトボードの高馬力化によるところが大きい。この10年余りで特に北米でのクルーザーのアウトボード化は著しい傾向だ。

今回紹介する「REGAL 33 OBX」は、アウトボード化最初の年、2017年に登場、その後継の2023年モデルとなる。発表以来、6年以上経ているが、細かな進化を続け、より熟成度が高まっているのはREGALならではだ。

「33OBX」は、バウライダータイプのエクスプレスクルーザー。全長10.4m、全幅3.2m、喫水0.89m、乾燥重量5.21トンというハルに、パワートレインはツインYAMAHA V6 F300を採用。発表当時はツイン350馬力仕様も存在したが、後述するようにツイン300馬力でも充分すぎるパフォーマンスであり、ツイン300馬力という現在の形に落ち着いたようだ。

今回は神戸・須磨の沖合いでシートライアルを行った。マリーナを離れ沖合いに出ると、多少風と波はあったが33フィート艇には問題のないレベル。シフトレバーを押し込み、一気にプレーニングさせる。一瞬でほぼハンプなくプレーニングに入る。3,500rpmで26ノット、4,000rpmで30ノットを超える。4,500rpmで35ノットに到達。30～35ノットがクルージングスピードであり操船フィーリングも非常に快適だ。

クルージングスピードでスラロームを繰り返すと適度な傾きでとてもスムーズに旋回する。ハードトップはあるもののオープンボートなので全周方向が見渡せる安心感も高く評価したい。さらにシフトレバーを押し込み5,000rpmで38ノット、さらにエンジントリムをコントロールして5,500rpmまで回すと40ノットに達する。さらに攻めて5,900rpmまで回しトップスピード44ノットをマークした。さすがにここまで追い込むと、ほぼアウトボードしか水面に着いていない状態、多少ふらつきは見られるものの素晴らしいパフォーマンスだ。40ノットまで落とせばそういったふらつきもなくなり非常に安定した走行姿勢になる。メーカー発表値はトップスピード42ノット。今回はそれを凌駕するスピードを叩き出した。

再びクルージングスピードに落としてスラロームを行うが、5,000rpm、38ノット程度でも安定した旋回を見せるのには驚いた。気付くとついついシフトレバーを押し込んでしまっており、スピード感覚が狂う。スターンドライブ仕様のREGAL 3300でもそうだったが、バウライダーらしい低重心で安定感ある走りと強烈な加速感はさすがである。以前から30フィート前後のREGALのバウライダーは、世界的にも高い評価を受けているが、「33 OBX」はアウトボードの採用でさらに進化を遂げたと言えそうだ。この走りは是非体感していただきたい。

フォアデッキにはマットレスやテーブルも追加可能。さらに右舷側コンソールのクォーターバースにはフォアデッキからアクセスできる。

*

「33 OBX」のデッキレイアウトはオーソドックスなバウライダー。最後尾に一体型の広々したスイミングプラットフォームがあり、その中央を掘り込む形で2基のアウトボードがマウントされている。エンジンの前側も普通に歩けるスペースが確保されており、目の前には後ろ向きのシートもある。

アフトコクピットには大型のL字ソファ、右舷にBBQグリルやシンクなどを備えたリフレッシュメン

L字の大型ソファを配したオーソドックスなアフトコクピット。右舷側にはヘルムステーション。全周方向が見渡せる安心感は高く評価したい。

トセンターが配置されている。L字ソファの後部は背もたれが前後に動くため、サンパッドにも可変である。さらにサンパッドの下部は大型ドライストレージとなっている。このあたりはベースがスターンドライブ艇であったことによるスペース的なアドバンテージとなっている。さらにデッキフロアやシート下にもストレージが備わっておりオープンボートとは思えないような収納性がある。またL字ソファにはテーブルもセット可能。素晴らしいパーティースペースとなる。

コクピット前方には左右にそれぞれ2人掛けのシートが並ぶ。ドライバーズシートは右舷側にあり、左舷側シートの前のコンソールは個室ヘッドとなっている。オープンボートながらヘッドはまずまずのクリアランスが確保されており座った状態なら充分。さらにサイドウインドウまである。

一方、ヘルムステーションのある右舷側コンソールの下部はナイトステイも可能なクォーターバースとなっている。まさかこんなところにダブルベッドを配したバースがあるとは!と、ちょっと驚いてしまうが、スペース配分の上手いREGALらしい意匠の一つだ。ベッドを計測してみると2m×1.5m弱あり、バウライダーとは思えないキャビンスペースとなっている。

このバースにはコクピット側からではなく、フォアデッキ側からアクセスする。もちろん右舷側のバースにもサイドウインドウがあり採光性にも優れている。実際にマリーナステイをするかどうかはともかくとして、緊急時の仮眠スペースにもなるし、ストレージとしても有効なスペースだ。「33 OBX」は北米ではファミリーユーザー層に人気というが、こういった細かな装備・レイアウトによるところが大きいのであろう。

ヘルムステーションは中央にGARMINのタッチディスプレイ、ステアリングを挟んで右にビルジなどのスイッチ類、左にYAMAHAのHelm Master EXのオートパイロットとFUSIONマリンステレオがマウントされている。また左上にはバウスラスターのコントロールノブがあり、右脇にHelm Master EXのシフトレバー、そのすぐ後ろに専用ジョイスティック、ホーンやワイパーなどのスイッチ類、さらにBENNETT MARINEのトリムタブコントローラーが並ぶ。いずれも操船中にも操作しやすい配置で、高速走行中のトリムタブコントロールも容易だった。

フォアデッキは左右にバケットシート、前側に後ろ向きシートが配置されている。フォアデッキ左舷側にはテーブルをセットできる。テーブルの代わりにマットレスをセットすれば、フォアデッキにもフラットなL字ソファが出現する。

全般に実に細かな点まで行き届いている印象の「REGAL 33 OBX」。その走行パフォーマンスの素晴らしさに目を奪われがちだが、バウライダーながら奇跡的な居住性まで有している希有なモデルである。真夏の瀬戸内などで快適なマリンレジャーを楽しませてくれそうな一艇だ。**P.B.**

コクピット右舷にはBBQグリルとシンクを備えたリフレッシュメントセンター。左舷側のゲストシート前のコンソール内は個室ヘッドとなっている。

パワートレインはツインYAMAHA V6 F300。5,900rpmまで回し44ノットがこの日のトップスピード。40ノットまで落とせば非常に安定感のある走りを見せる。

REGAL 33 OBX

全長 10.4 m
全幅 3.2 m
喫水 0.89 m
重量 5.21 ton
エンジン 2× YAMAHA V6 F300
最高出力 2× 300 HP
燃料タンク 939 L
清水タンク 110 L
問い合わせ先 リーガルジャパン TEL: 079-322-8800
https://regalboats.jp

YouTube YouTube